新屋鹿嶋祭保存会 座談会 2013

《議事録》

●と　き　２０１３（平成２５）年１１月１６日（土）
●ところ　西部市民サービスセンター「ウェスター」
●出演者（パネリスト）のプロフィール
▼大門勲男「上表町内会の鹿嶋船の制作にあたり、長きにわたりおもに搭載人形を担当してきており、動く製作者はこの人の右に出る者はいない。日吉神社総代も務めている。６９歳」
▼大塚正一「緑町町内会の総務部担当しており鹿嶋祭保存会では総務会計。若い頃から町内会の役員・世話役を務め鹿嶋祭でも彼をおいて町内会の鹿嶋祭は始まらない。６５歳」
▼今野正人「中表町内会で役員担当。昔からの新屋衆の中堅。鹿嶋祭とも若い世代から深く付き合いがある一方、鹿嶋祭を通じた町内愛、家族愛にかける思いは人一番強い。５９歳」
▼黒澤正弘「秋田市新屋に居住し始めて１１年、子供会活動の活動、役員をにないながら鹿嶋祭を若手の中心的存在として牽引してきた。４７歳」
▼伊藤富美雄「鹿嶋祭保存会会長。平成２２年鹿嶋祭当番町を務めた際、『鹿嶋流し』をめぐり伝統堅持か、環境保全かで揺れた問題から『鹿嶋祭を考える会』を発足して、鹿嶋祭保存会準備会を設立、現在は鹿嶋祭保存会会長を務める。現在７５歳」
▼司会者　藤枝隆博「新屋に居を構えて３０年。大川町内会の子供会長を歴任後、町内会役員に入り、平成１３年から町内会総務部長。鹿嶋祭保存会準備会から事務局を担当して、保存会総務部長に就任。会では企画・立案しながら、鹿嶋祭保存会内の５つの部会の連絡調整役を担い、広報部副部長として鹿嶋さんニュースも発行に着手。５７歳」

★初の座談会、未来に向けて大いに語る★
▽（司会：藤枝隆博）
　只今から鹿嶋祭保存会主催の座談会をはじめたいと思います。「昭和の時代」という古き良き時代から、「平成の鹿嶋祭」に至るまで、楽しかったあの頃を振り返り、思い出話や各町内会で苦労されたことなど、新屋の鹿嶋祭を大いに語っていただこうと考えました。そんなお話を通じて鹿嶋祭が新屋の地域に何をもたらし、祭りを通して町内会や各家庭、家族に何を残してきたのかを探りながら、後世へ語り継ぎ、残して行くものは何なのかを探ってまいりたいと思います。本日は、古くから鹿嶋祭に携わって来た先輩の皆さんと現在、地域で、子供会で祭りに関わって来た若い方々に集まっていただきました。まずはパネラーの皆さんから自己紹介からお願いします。
▽（大門勲男さん）
　こんにちは、上表町の大門勲男と申します。新屋で生まれ育った私は、子供の頃から鹿嶋祭に参加してきました。大人になってからも先輩たちから「鹿嶋祭にはちゃんと手伝ってくれよ」と言われました。町内会の石井花屋さんが花籠を使って武者人形を作っておりました。当時、私は下っ端だったので船の下回りを担当しておりました。しかし、３、４年して石井

花屋さんから引継ぎの話がありました。ある先輩から「お前、電気屋だから針金を使っていろいろ器用につくれるのでは・・・」とお願いされまして、それからずーっとこれまで私が搭載物の製作に当たることになりました。
▽（大塚正一さん）
　緑町の大塚と申します。学校を卒業してからすぐに鹿嶋祭に参加しました。当時緑町には青年部がありまして、そこが中心となって鹿嶋船、鹿嶋人形を作っていました。今では、子供会の父さんたちに船や搭載人形の作りかたを教えています。
▽（今野正人さん）
　下表町内会の今野です。私も新屋生まれの新屋育ちですが、２、３歳の頃に母親に抱かれて鹿嶋祭に写真におさまっている写真があります。小学生になってからは鹿嶋祭が近づくと気持ちがワクワクし、心待ちしたものでした。その後、高校、学生時代を卒業し、結婚してからは子供会長（の抜き)として、あるいは町内役員として鹿嶋祭に関わりました。鹿嶋祭を通して子供達の健やかな成長を願い、新屋の伝統、気質を感じてほしいと考えておりました。
▽（黒澤正弘さん）
　比内町青年会の黒澤と申します。鹿嶋祭保存会の集まりに参加したのははじめてですので、よろしくお願いします。もともと出身は大館ですが仕事の関係で新屋に住み始めて１１年経過し町内会に関わってきました。昔の鹿嶋祭はわかりませんが、私みたいに新参者として新屋の鹿嶋祭に参加している方々も多いと思います。今日はそうした立場から話してほしいと呼ばれたと思っていますのでよろしくお願いします。

◆鹿嶋祭の思い出を語る
▽（司会：藤枝隆博）
　ありがとうございました。４人のパネラーのみなさんに鹿嶋祭の思い出を大いに語っていただこうと楽しみですが、鹿嶋祭保存会の伊藤富美雄会長も御出席しております。では、初めに大門さんから口火をきっていただきます。
▽（大門勲男さん）
　昭和の鹿嶋祭について私の小学校時代から話してみます。当時、上表町内会には大変多くの子供の人数がおりました。各家庭には４、５人の子供がいるのがあたりまえでした。昭和３０年代にはあまりにも子供の数が多かったために上表町では男の子の船と女の子の船を２艘作っておりました。参拝するのは男の船だけでした。鹿嶋祭の日取りは、現在、六月第二日曜日ですが、当時は日にちが決まっておりました。したがって平日の祭りでは小学校は１～２時間授業で終了して、それから鹿嶋祭を行なっていました。上表町では、鹿嶋講中として独自の前夜祭がありまして、秋田音頭など太鼓や笛を吹いて盛大に盛り上がり楽しんでおりました。
▽（大塚正一さん）
　小さい頃の鹿嶋祭の人形は、隣人に中川さん（※）という方が鹿嶋人形を作っており各商店に卸していました。祭り当日の朝早く起きて「露ふみ」という行事があり、家から裸足で

土手に出かけて露を踏んで帰ってきてから支度をして鹿嶋祭に出かけました。鹿嶋祭が終わると風呂屋にいきましたが、風呂には菖蒲が浮かんでおり、それを頭にハチマキすると健康になると言い伝えられていました。

鹿嶋船は毎年川に流しており、鹿嶋祭が終わると最後は褌姿で川の中心まで船を運んで流していました。子供の頃はその様子を見ており、いつかは自分達もやりたいと思っておりました。今では船ごと川に流さず保存するようになりました。当初は人形、搭載物を作るのも大変苦労していまして、パンティーストッキングにおが屑を入れたり、番線を曲げたりして試行錯誤を繰り返しております。

人形、船の制作は、仕事を終わってきてから皆なで集まってやるのですが、先ほどの黒澤さんのように新屋衆以外で新しく新屋に越して来た方が、町内の総会には来ないけれども鹿嶋祭には参加していただき、和気あいあいの付き合いがはじまりました。鹿嶋祭の準備期間中に深夜、海に川ガニを採りに入って次の日食べながら盛り上ったこともありました。こんなふうに鹿嶋祭が町内会の「和」につながるいい機会になっておりました。

（※中川長治さんは新屋最後の鹿嶋人形製作者。川原の粘土を選択して捏ねながら鹿嶋さん首を型に入れて乾燥させ、台木に取り付ける前に顔にゴフンを塗り、顔を書き入れて鹿嶋人形を作っていた。NHK でも製作過程が放送された。）

◆遊山も鹿嶋祭も、子供が中心

▽（司会　藤枝隆博）

新屋の町は子供の行事・遊山が春一番に始まり、端午の節句（子供の日）、日吉さんの祭り、そして鹿嶋祭とお祭り行事が続きます。昔はさらに七夕祭りと「よちゃこの灯篭」「やぐらこ」の行事と続いたようですが、大塚さんの子供の頃、どのような気持ちで待ち受けていたのでしょうか。

▽（大塚正一さん）

当時は遊山も鹿嶋祭も日にちが決まっており、春は毎月祭りや行事がありました。学校も休み（短縮授業）で、学校の先生も遊山場を見回っていました。

▽（司会　藤枝隆博）

新屋のお祭りや行事は、子供が中心に主体的に準備や運営にあたって来たと書物や言い伝えがあるようですが、当時と今を比較してどのようなものでしたか。

▽（大塚正一さん）

遊山はすべて子供が主体となって積極的に行なっていました。鹿嶋さんも楽しみだから子供が楽しんで関わっていました。今は親が準備しているところに子供が行事についてきている感じですね。

▽（大門勲男さん）

遊山も子供が全部中心となり、町内を回って寄付を集めるのも子供が行なっていました。運営、準備すべてを子供が取り仕切っており大人は一切口をはさみませんでした。鹿嶋祭も船や搭載物以外は子供が関わり製作、船を引っ張るのは子供達でした。鹿嶋祭の時は朝早く６時から露ふみして、学校が終わると真っ先に走って町内に帰ると鹿嶋さんの準備していま

した。いつも先になり綱の先端を持つのはキカネ、元気な子供でした。それほど鹿嶋祭を楽しみにしておりました。
▽（今野正人さん）
　昭和３０年代を小学生として過ごしました。私には姉が二人おりまして、遊山の催しには先ほどお話がありましたように小学６年生が中心となり寄付金、賞品など集めてプログラムなど作ったりしておりました。私には小学６年生が大きく見え、早く高学年になりたい思いが強かったです。遊山、日吉祭、鹿嶋祭と行事が続いて、鹿嶋祭では前々日から親類が集まりあんこ作ったり、柏餅を作ったり、普段作らないようなお菓子がありました。
　鹿嶋祭には「生き人形」（人間が仮装して）が鹿嶋船に乗っていたりして楽しい思い出がありました。

◆「鹿嶋流し」の伝統を守っている
▽（司会　藤枝隆博）
　今年の鹿嶋祭参加町内会にアンケート調査を行ったデータが手元にありますが、「鹿嶋祭の終わりに鹿嶋祭人形を川に流している」という町内会が７つありました。昨年の調査では３町内会でした。川に流すことの善し悪しをめぐって議論が巻き起こり、この鹿嶋祭保存会が出来上がったきっかけでもありました。そのへん、みなさんの町内会ではどうされていますか？
▽（大門勲男さん）
　上表町では、現在でも川に流しております。参拝した日吉神社から頂いた御幣を小さな仮船の先端に取り付けます。鹿嶋船のお堂に飾った何体かの鹿嶋人形を船に乗せて流しますが、言われるところの「ゴミ」とは考えないで祭りの神事、行事のひとつとして行なっております。
▽（大塚正一さん）
　鹿嶋祭は別名「鹿嶋流し」と言われているように、鹿嶋船、ガジギ、搭載物は別にして、子供たちが家庭から持ち寄った鹿嶋人形は鹿島船に乗せて流しています。全国いろいろなところで祭りやお盆の行事として神事に関するものを川に流していますので、鹿嶋祭でもそれを尊重して行なっています。
▽（司会　藤枝隆博）
　アンケート調査から紹介しますが、栗田養護学校などは「ダンボールで小型の鹿嶋船を作り鹿嶋人形を乗せて川に流しており、その後回収して可燃物として処理している」とあり、「流す」という行為は尊重して子供たちに見せているようですね。下表町も「自然環境に優しい素材を用いて鹿嶋人形を作って川に流している」と回答しています。一方では、「可燃物処理しており川に流すことは控えている」という回答や「町内会から雄物川までは距離があり、川に行くまで子供らの負担が大きくて困難であり難しい」という回答も寄せられています。
　鹿嶋祭保存会としては議論があるところでもありますが、祭りの神事、伝統を踏襲するのか、環境保全かという意見が分かれるところですので、伝統をなんとか守っていきたい思い

はどの町内会からも伺えるところですので、結論を急がずに保存会の宿題として討議を継続していきたいと思っています。

◆鹿嶋船の作り方は変わりないが、鹿嶋人形は既製品から手作りへ

次に鹿嶋船についてテーマを移してお話して欲しいのですが、鹿嶋船の制作で時代の変化などありますか？

▽（大門勲男さん）

鹿嶋船の作り方については、先輩たちから教わってきた作り方を守っています。ただ違うとすれば、鹿嶋船の後方に乗せるキャラクター人形が毎年変わるぐらいでしょうか。鹿嶋船に関してはほとんど変わっていませんね。

▽（今野正人さん）

私の町内会も鹿嶋船の作り方は伝統に沿って作っております。

▽（司会　藤枝隆博）

鹿嶋人形についてはいかがでしょうか？

▽（大門勲男さん）

各家庭から作り寄せられる武者人形について昔は出来合いで作られた鹿嶋人形を作って船に乗せていました。最近では、顔の形や表情も違うし、着物なども色紙、包装紙で作っているなど町内ごとに独自性があります。中には、鹿嶋人形の型枠にはめて顔を作っていることもありましたね。

▽（司会　藤枝隆博）

昨年のウェスターで緑町から鹿嶋人形の顔の型枠が提供され展示されました。実際に型枠で顔が作られていたのですか？また、現在ではいかがでしょうか？

▽（大塚正一さん）

鹿嶋人形は顔が非常に大事ですね。最近では紙粘土や卵のからなどで作っています。昔は牛若丸や弁慶、そして加藤清正の顔など好まれて販売されてよく作られていました。鹿嶋人形の講習会ではやはり顔にこだわって作っていますね。中川さんが型枠で作っていたように今でも顔の型枠があった方がいいと思い交渉していますがなかなか難しいですね。

▽（今野正人さん）

往時はお店屋さんから買った武者人形が船に並んでおりました。その後、町内会や学校でオリジナルな人形を作ろうということになり、講習会を行い工夫こらした人形が並ぶようになりました。

▽（黒澤正弘さん）

今は学校で鹿嶋人形を作ることはありません。以前は鹿嶋人形の顔を買ってきていたことを初めて知りました。私が鹿嶋祭に関わるようになった頃には町内会で講習会を行なってきましたね。

▽（司会　藤枝隆博）

町内会でやっているところ、各家庭で作っているところなど、各町内によってまちまちのようですね。

◆搭載人形の失敗談・成功談

次に鹿嶋船に乗せる搭載物についてお話を伺います。鹿嶋船の後方に搭載するキャラクターグッズ、搭載物が鹿嶋船のもうひとつの見せ場、見世物なんですが、特に上表町の大門さんは動く人形づくりを毎年手がけているんですが、その辺の苦労話しなどありましたらご披露下さい。

▽（大門勲男さん）

目が光る怪獣ゴジラを作った時には、あまりにも天気が良すぎて光る目が目立たなかった失敗がありました。それから電気で光を出すことはやめました。

次の失敗作は、鳥海山が噴火した翌年、（昭和４９年３月１日山頂カルデラ内の新山及び荒神ケ岳周辺で１５３年ぶりの噴火活動がおこった。）鳥海山の噴火を作りました。鹿嶋船に山を作って噴火する煙には車の発炎筒を使用しました。しかし使用した発炎筒の火力が強いために、鹿嶋船の中でボヤが発生してしまった。（笑い）これも失敗談です。

その後、動く人形を作るようになりましたが、神社にお参りするまで壊れないようと注文が付けられていました。ある年、体操選手で、秋田で有名な小野選手を作った。鹿嶋船の上で小野選手が鉄棒でグルグル回る人形をつくりました。しかし手足が長かったことから人形の回転する範囲が広くて、船のあちこちに手足がぶつかり複雑骨折して、女性の靴下で作っていた足から中身が飛び出したこともありました。（笑い）これも失敗談でした。

次に成功例です。「あきたこまち」を作りました。市女傘に隠れた秋田美人の顔が後ろで紐を引くとカーテンが引かれ次に現れる顔が「ひょっとこ」に変わり、次に現れる顔が「おかめ」の顔に変化するように工夫した人形は喜ばれました。皆さんから「これどうやって作っているの」と仕掛けを見せたら褒められた事がありました。

次の成功例は、「襟巻きトカゲ」です。この走り姿がパタパタと面白く滑稽です。襟巻きもマントみたいに閉じたり広がったりするのですが、走りながら足が動くのは車のバッテリーとモーターを設置して動力としました。襟巻きはこうもり傘を使って開いたり閉じたり動くのが喜ばれました。これもなかなかの傑作でした。まだまだありますが代表的な失敗例と成功例ですね。こうして何年も作ってまいりました。

▽（司会　藤枝隆博）

大変楽しいお話しありがとうございました。昨年、今年と私は日吉神社の鳥居の下でカメラを構えて全町の鹿嶋船を撮影しました。ユニークな人形、搭載物があり、工夫された人形の姿、形、色合いなどに感心させられました。鹿嶋祭に参加する方々は自分の町内会の船やすれ違いざまに他町内の船をご覧になるでしょうが、各町内の子供たちが誇らしげに船を引く姿を見るのはとても楽しいですし、特徴もそれぞれありますね。

▽（大塚正一さん）

昔、鹿嶋船の搭載物の人形のコンクールを行なったことがありまして、確か三回目までやったと思います。第１回目優勝は緑町、２回目、３回目は上表町内会だったと思います。優勝した時は、張り切って徹夜で搭載人形を作りましたが、人形が大きくて集会所の出入り口から出なかったと聞いております。その後「むかし話シリーズ」を連続して作ったこともあ

りました。上表町内会のように動くキャラクターに挑戦してこともありましたが、うまくいかなかった経験もあります。
▽（黒澤正弘さん）
　比内町は子供会の親の皆さんが団結力を発揮して、町内会を上げて船やキャラクター人形を作ってきました。帆柱の先にいろいろと飾り物をつけたところ、船の上からかなり高くなりまして運航中に電線に引っかかり壊れてしまうトラブルもありました。
▽（司会　藤枝隆博）
　鹿嶋祭保存会では昨年、今年と参加町内会に鹿嶋祭のアンケートを実施しまして、各町内会から回答が寄せられております。その中で、「鹿嶋船、鹿嶋人形、鹿嶋搭載物等の製作日数と参加人数」を伺っております。それによりますと製作日数では、短いのは３日間、長いのでは２１日間となっています。次に参加延人数ですが全町合わせますと１３７６名が鹿嶋祭の準備期間に携わっております。ですから相当の数の方々が鹿嶋祭に関わっていることが伺えます。
また鹿嶋祭当日の子供と大人の参加人数ですが、子供が９９０人、大人が１１２６人と回答が寄せられています。このように新屋全町、全域を挙げての祭りとなっていることが証明されており、また鹿嶋祭を本当に楽しんでいることが想像できます。

◆子供が少ないところと、多いところでも人材難
　一方、毎年の鹿嶋祭を運営するにあたり苦労されていることや課題がありましたらお聞かせ下さい。
▽（黒澤正弘さん）
　我が町内会は比較的子育て世代が多い町内会だと思います。若い人の中には、鹿嶋祭の意味や運営をよく知らないでやっている方もいたりしますが、昔ながらの大先輩に鹿嶋祭の習わしや鹿嶋人形、搭載物の作りかたを教わりながら一緒になって作る機会があることは鹿嶋祭のいいところだと思います。
▽（今野正人さん）
　下表町内会の子供の数が少なくなってきた時期もありましたが、ここ５年間で町並みも変化して若い世代がまた増えて来まして、鹿嶋祭に賑わいが戻り活気が出てきました。
　１５年前に私が子供会長をしていた鹿嶋祭でピカチュウの人形や絵を作りました。それからしばらくして新屋の浜、河口に行ったところ魚釣りしている方が、そのピカチュウの絵を書いたコンパネ板を日よけにして利用していたのを見てびっくりしたことを思い出しました。当時、鹿嶋船を流していた頃に一緒に流れて行ったんでしょうね。
▽（大門勲男さん）
　上表町内会は子供の数が少なくて２０人いない状態です。日の出町さん、比内町さん、沖田町さんとすれ違うと羨ましく思います。外孫でもいいから鹿嶋祭の時に参加させたいと思っています。
▽（大塚正一さん）

緑町は町内が拡大してそれとともに住宅も増えて昔よりも３倍も子供世帯数が増えています。そんな中で考えることは、子供会長を中心に鹿嶋祭を行なってきましたが、１，２年で交代してしまい、なかなか鹿嶋祭のノウハウの引き継ぎがうまくいっていません。せっかく教えても人が変わってしまう問題があります。子供は多いけれども鹿嶋祭を理解していない、人材作りに継続性がない事が気がかりです。

▽（司会　藤枝隆博）

それは大川町内会でも同じですね。小学生の親御さんらが鹿嶋祭に関わっていますが子供が卒業すれば親も一緒に卒業してしまいます。親の皆さんが町内会の活動や鹿嶋祭に関わり引き続き残って来てくれたらありがたいし、後継者づくりに結びつくと思うのですが・・。

▽（大門勲男さん）

私自身、鹿嶋船を作る設計図は毎年のことなので問題はありません。しかし、動く人形作りは夜に寝ながら頭の中に浮かんでくるわけで、設計図があるわけでなく、自分の頭のイメージを他人に移せないので、後継者作りはなかなか難問ですね。

◆鹿嶋祭をいかにして後世に伝承していくか

（司会　藤枝隆博）

ありがとうございました。伝承もなかなか難しいものですね。さて、これまで鹿嶋人形、搭載物の製作段階での苦労話しや、祭りの運営における課題などお話ししていただきました。さて、座談会も時間が迫ってきておりますが、子供会を中心とした鹿嶋祭の後継者づくり、人材づくり、担い手づくりが課題となっている現状もお話がされました。

もう一つ、鹿嶋祭の意義や新屋地域にどのような影響を与えてきたのか、祭りそのものをどのように後世に伝承していくのか、これはまさに鹿嶋祭保存会のテーマでもあるわけですが、どのようにお考えでしょうか？

▽（黒澤正弘さん）

鹿嶋祭を新屋の方々は本当に心待ちに楽しみにしていると同時に、祭りを通じて町内会がひとつになれる、繋がりを大切にしてきた祭りです。その繋がる心を如何に伝えて行くのかですが、あまり焦ることなく地道にすこしずつ、できることから自分の経験を次の方々に伝えていきたいです。時代の変化とともに祭りも人も変わって来るとは思いますが、先輩たちからいろんな話を伺いながら取り組んでいきたいと思います。

▽（司会　藤枝隆博）

黒澤さんは新屋市民憲章青少年育成部の役員を担当しており、日新小学校正門前で出勤前に「朝の声かけ運動」にも参加されています。鹿嶋祭での子供を慕う気持ち、大切に育む心と取り組みは、市民憲章の理念と共通する心でしょうから、青少年育成活動等と併せて今後とも活動を期待しております。

▽（今野正人さん）

下表町内会では今年新しく町内会館が完成し役員や町内会の皆さんが集い団結を深める場所ができました。こうした場所もできたこともあり、今後とも鹿嶋祭に関わりながら子供達の健やかな成長を願う行事、祭事として昔から伝えられてきたことを大切にしていきたい

と思います。こうした親が子を思う気持ち、心の有り様は太古の昔、縄文時代から受け継がれてきた親子の絆であり、子供たちの命や健康を祈ることの大切さを新屋では鹿嶋祭を通して毎年確認出来る行事だと私は思っています。鹿嶋祭の鹿嶋流しという行為が、鹿嶋人形に子供たちの厄を背負わせて川に流すことで子供たちの無病息災、家内安全をお祈りする鹿嶋祭の真髄みたいなものをこれからも引き継いでまいりたいと思います。

▽（大門勲男さん）

新屋の鹿嶋祭を全県はおろか、全国的にももっと活性化させる工夫も必要ではないでしょうか。私も全国各地の祭りを見物した経験からすると、神社へ奉納、祈願する鹿嶋船が一同に会する場を設けられないか、参加町内会の鹿嶋船を一斉に結集させてから日吉神社に順番にお参りするという方法、企画が実現できないかと考えるんですが・・・。

▽（大塚正一さん）

伝統のある鹿嶋さんをどう活性化できるかという大門さんからの意見を伺っておりました。そこで鹿嶋船の奉納のあり方、ご祈祷の順番性について私はひとつの意見をもっています。それは、昔は狼煙が上がってから一斉に神社に参拝するために日吉神社に向かった。だから神社前にいくと各町内会の船が待機しており、たくさんの鹿嶋船を見物する事ができました。当時、緑町は最後に奉納して町内に戻ってきていましたが、最後は交通規制が終了しており安全面が不安になって、それから順番制で公平に扱うように変わってきました。
本来、船が町内を練り歩くのは神社にお参りしご祈祷を受けて御幣をいただいてから新屋の街並みを練り歩くのが正当ではないかと思います。竿燈祭りも御幣を頂いてから演技を開始します。鹿嶋祭保存会には各町内会長も役員として名前を連ねておりますから、せっかく作った保存会であり、素晴らしい鹿嶋祭ですからこうしたテーマで協議してほしいですね。

鹿嶋祭保存会で写真を撮って見られるわけですが、各町内会の力作ぞろいの鹿嶋船を楽しみながら鑑賞し、相互の頑張りを確認しながら来年の船づくりに役立てていくことも大事なことだと思います。

◆町・人や・祭と交わり、新屋の可能性を追求！

▽（司会　藤枝隆博）

ありがとうございました。お二人から鹿嶋船を鑑賞する、喜びや素晴らしさを共有し、様々な工夫を楽しむ取り組みが求められているとのお話しが提起されました。秋田県北部の「花輪囃し」という祭りがあります。これなどは各地から花輪駅前に一斉に集まり山車のきらびやかな光と輝きの数々、迫りくる太鼓と笛の音、勇ましい歌声と掛け声が周辺に響き渡り、観光客、聴衆は圧倒されるわけです。この祭りのクライマックスの演出は、故郷の祭りを誇り高きものに感じていく要素になっているのではないかと思います。

鹿嶋祭りに対する要望で一番多いのは、これだけ多くの鹿嶋船が街を練り歩くのであれば、それを一同に集合させて船や人形や搭載物を鑑賞したい、あるいはお囃子の共演をしてもらい子供らの元気な太鼓と鹿嶋さんの唄を聞いてみたいという要望が底辺にあります。これらを実現可能にする方法はないのか、良き伝統を守りつつ、まだまだ楽しくワクワクするような祭りにできるんだという可能性を追求できないかという思いがあります。

鹿嶋祭保存会には理事として町内会長さんらが加入して運営しておりますし、町内会役員の方々が加入されておりますので、保存会でその辺の討議を深めながら毎年の鹿嶋祭に反映できないかと思っています。

また、新屋のまちに住んで鹿嶋祭に参加している他の地域、市町村からこられた方々も多うございます。そうした人たちの貴重なご意見を聞いていく事、機会を持つことも今後大事ではないかと思います。

加えて、今年秋田公立美術大学４年制が実現誕生しました。新屋の伝統行事を守ることと美術大学の掲げる「新屋のまちや人々と交わり、地域の祭りや行事と深く関わりを持ちながら学び交流していく」という理念、コンセプトをどう活かして行くのか、鹿嶋祭保存会や新屋の様々な立場、組織の皆さんが提案して行くことは新屋にいる私たちの使命でもあると思います。来年以降も秋田県内外から「秋美生」として多くの若者が集ってきます。他の地域の祭りなど経験し見てきた学生さんも多いと思いますので、鹿嶋祭にも積極的に呼びかけ参加してもらい、外部から見た意見、感想など幅広く拝聴していくなど、是非そうした機会を設けていきたいと思っているところです。

また、伝統ある鹿嶋祭をいかに継承・発展させていくのか、また「祭りを継ぐ人材の育成と指導性」についての課題も提起されました。今後の鹿嶋祭保存会の当面のやるべき取り組みやテーマが少しみえてきたようですし、座談会討論を通じて課題について共有、確認できたのではないでしょうか。

それでは時間が迫ってきましたので、座談会のまとめとして伊藤富美雄会長から感想を含めてご意見をいただけたらと思います。

▽（伊藤富美雄会長）

皆様、お疲れ様でした。鹿嶋祭保存会として本日お話していただきました貴重な思い出話やご意見を参考にして、これからの事業活動に活かしてまいりたいと思います。

鹿嶋祭が「鹿嶋流し」と呼ばれていますように、「流す」という行為を祭りの真髄として、鹿嶋祭を支えている町内会の人々や子供たちに教えていくことが重要であるし、そのことを伝えて尊重していくことを考えた活動を大切にしていきたいと思いました。

▽（司会　藤枝隆博）

本日、座談会に御出席下さいました４名の方々に拍手で感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

座談会をお聞きになられた参加者の皆さんから質問、ご意見などありましたら発言をお願いします。

▽（事業部長　小島初男さん）

本日はいろいろありがとうございました。事業部として鹿嶋船を一同に集めて見られる、観賞できないか模索しています。新政酒造の跡地の利用ということで、神社から出向いてもらいお祓いして御幣をいただくなどしてなんとか実現できないか、当番町にも相談しながら実現していきたいですね。

ガジギが河川環境の変化からか生育が思わしくないのか、ヨシやカヤで代用している町内会がありました。新屋、西部地区には川や沼が点在していることから、ガジギを育て栽培で

きないかと思っており、事業部としても考えていきたいと思っています。八郎潟村内の県立農業大學の皆さんが育てるための研究、実験などしているようなのでこの辺をどうにかできないかと思っております。

▽（大塚正一さん）

緑町は川の近くなので昔は簡単に採れていました。現在は田んぼの近くの水路などに生育しておりますが、鹿嶋祭の季節の頃には農家が刈り取る時期と重なり採取が難しいこともありますなで、鹿嶋祭保存会で育てる工夫をしていきたい。ガジギは山菜と同じで取れる場所は町内会の機密事項となっている。（笑い）

▽（大門勲男さん）

今年はガジギが不作で、愛宕町内会からようやく教えてもらい助かりました。やはりなかなか他には教えられない秘密になっておりますね。（笑い）

▽（司会　藤枝隆博）

鹿嶋祭保存会製作部会として「模範的な鹿嶋船の製作」を検討しています。国安製作部長から報告がありますか？

▽（国安　明製作部長）

製作部会では目指すべき船のモデルがだいたい図案ができつつあります。千葉県佐倉にある国立歴史民族博物館に保管されている鹿嶋船が伝統的なモデルとなるのではないかと考えています。

▽（伊藤富美雄会長）

模範的な鹿嶋船の制作完成後、保管・展示場所と展示基地として日吉神社境内を考えており、石澤宮司さんに相談しております。

神社側からは土地の提供については了解を得ておりますが、これからの鹿嶋祭保存会の全体の合意と製作に向けた具体的な相談が必要です。

▽（司会　藤枝隆博）

鹿嶋祭保存会の舛谷さんからここ２.３年の鹿嶋祭での各町内会の鹿嶋船の写真を分析、参考にしながら模範的な船を図案化、デザイン化したものが完成しています。同時に、船の保管場所、展示会場、展示方法などと並行して協議しなければなりません。また、船の製作費として資金づくりの課題もあります。秋田市の地域づくり交付金の継続について新屋振興会でも要望を市側に提出していますので、その動向をみながら対応しいきたいと思います。

鹿嶋船の製作については、１、デザイン、２.資金、３.展示会場（場所）が課題となりますので、事業部、製作部を先行して協議していただきますが、来年の鹿嶋祭保存会「会員全体会議」等に報告しながら全体の総意として事業展開してまいりたいと思います。

時間も経過しましたので、このへんで座談会をお開きにしたいと思います。ありがとうございました。

（録音・文責　総務　藤枝隆博）